On Your Mark

おかか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Ｏｎ　Ｙｏｕｒ　Ｍａｒｋ

【Ｎコード】
Ｎ６７０１Ｚ

【作者名】
おかか

【あらすじ】
普通に過ごしていた主人公　カイトがある日事故にあって、植物状態になる。心配し、悲しむ人たちの中の一人の少女の前にカイトが幽霊であらわれて・・・・・
※事故までがけっこう長いです。主人公は一応死にません。

プロローグ（前書き）

こんにちはおかかです。
駄文ですが、読んでいただけると嬉しいです。

プロローグ

オレの名は山口海人(やまぐちかいと)
山も海も入ってるから天下統一もできるかもな・・・なんて、いつかうちの父さんが言ってた気がする。まあ、体育以外オール3のオレにわかるのだから、父さんは結構バカなのかもしれない。まあ、それは置いとく。
高二とは、受験もなくって一番楽しい青春時代だ！そしてその高二の立場にオレはいる。九十浜(くとうはま)高校の二年だ。え・・・っと、ピース？
今の季節は春ときた。そしてクラス替えでーす！
オレにも、好きな子がいる。幼馴染のアイツ。雪白夏季(ゆきしろなつき)。夏と海で合うかもなんて考えるオレはやっぱり父さんに似ているのだろうか。
クラス・・・・同じだといいな。オレ女々しいな。　おっ貼り出されてる。
さっさぁ見るぞ～～・・・・。

「イエス！！」あっ・・・・・つい叫んでしまった。そしたら

「オレと一緒を喜んでんのか？」と言って抱きついてくる変態が一人。

「お～ま～え～は～～気っ持ち悪いんだよ！」

「ひどいわ！カイトく～～～ん？」

「うっわ・・・キモ。てか、抱きついてくるお前が悪い。」
そういうひとつひとつの動作で笑う一年がムカつく。

「一年生どもよく聞け――――い。オレを笑っていられるのも今のう

ちだかんな。」

「でもでもっ体育以外はオール３じゃないですかぁ！カイト君！」

「うるせー！黙っとけ！」

笑う全校生徒とどこから聞きつけたのか追って来る校長と逃げるオレ。

プロローグ（後書き）

短いですね。すいません。幽体離脱はけっこう後です
読んでいただきありがとうございます。
よかったら感想お願いします。

クラス替えとこんにちわヒロイン（前書き）

どうも。おかかです。今回は少し長めです。少しですけどね。

クラス替えとこんにちわヒロイン

紹介が遅れていたが、「ウザイ」「キモイ」「キャラ濃い」などと、思われた方も多いであろうこいつの名前は佐藤拓也（さとうたくや）。名前だけは立派なのにな～～～。

女子から［たくちゃん］と呼ばれオレに向かって「オレモテすぎちゃって困っちゃ～～う。」などと言っているが、オレのがモテてるわ。ラブレターとか月一でもらうし、ハハーン。バレンタインともなれば、１５個は固い※（義理含めて）いつか母さんに「顔と声はいいのにね～～。」なんて言われたが。

置いとこう。

このクラスでよかったー。先生も普通だし。

でも、

一番よかったのは、ナツキと一緒だということだ。

そう思うオレは、やっぱり女々しい。

サバサバしているナツキのことだ。クラスが分かれたら、きっと切り捨てられてた。友達として。

ゴーカイな男ならよかった。そしたら、クラスなんて飛び越えてでもナツキに会いに行くんだろうな。

でもオレにそういう勇気はない。

ナツキとオレの関係は、幼馴染で友達。周囲から見れば「純愛」ッ

ポクていいじゃない。なんて思われるかもしれない。
それは違う。
幼馴染だからこそ遠いい。
いっそのこと、タクヤみたく笑っていられるポジティブなやつならよかった。なんて思ったことがあった。ムリだし。なりたくないから、一瞬で捨てたけど。そんな事を考えていたら始業式が終わってしまった。
世界の中でも最上級の女々しさだと思うよ。オレだって。

そのまま休み時間突入！かと思いきや担任の話～。長くて楽しくないけど。まあこれが高校生のお仕事も一つですからね。しかたない。少し思ったことがある。担任は思ってたよりイイ奴みたいだ。

「――――というわけで二年生として気を引き締めていこう！な～んて言っても、中だるみの二年だしなぁ。あっ一年の時G組のやつは今年もよろしくな。・・・・・・・長い話も終わりだから。それにしても、あからさまにぼーっとしてくれるねえ。山口君。」

「えっあっはい！すいませんでしたーーーー！！！」
みんながあまりにも大きい声で笑うから。つられて笑う。タクヤは腹かかえて笑ってる。まあ、後でシメルケド。ナツキも笑ってんなぁ。ちょっとうれしい。

「じゃ～～～、休み時間にするぞ～～～。」

ガタガタガタガタ。

「アリガトウございました～。」
う～～～むイイクラスだなあ。
そんなことを考えているとナツキとユヨルが寄ってくる

「また一緒でよかった～～。友達いるのは安心だもん」うわグサグサくるなあ。友達・・・分かっててもね・・・・・。

「オレもよかったよ。ナツキと一緒で！幼馴染だもんな。」自分で言ってりゃ世話ないぜ。

「私もね一緒でよかった～～～って思ってたところだよ」
こっちはユヨル。本名早川由夜（はやかわゆよる）スタイルが良くて身長がやや高い。オレよりはぜんぜん下だけど。（オレ１７９ｃｍでユヨルは１７０ｃｍだからやや高めとなっております。ちなみに、タクヤは１８５ｃｍでナツキは１６０ｃｍ。長身が多いグループだ。それゆえに低めのナツキはいつも「ずるいよ～～」と言っている。）
オレとナツキとユヨルとタクヤは仲がいいとされている。

「私ね！海に行きたい！四人で！夏休みに！」

「気ィ早！！ユヨル！」だってまだ一学期はじまったばっかだよ！おかしくね！？

「夏なんてすぐ来るって！すぐ！だから今から計画たてよーよ。２泊３日がいいんだけど～～。」

「ちょっと待て！！春にはオレの一年の華、体育祭があるんだぜ。」

「「あっあ～～～。」」三人の声が重なる。

なるほどと言いたげな顔をして。

クラス替えとこんにちわヒロイン（後書き）

駄文だなぁ。
すいません。ほんと。

委員決め（前書き）

今回はすっげーー短いです。事故まで急ピッチで行きます。

委員決め

「くか――っ。」
そう寝ていたのが悪かった。オレはあいつをナメていたんだ。

キンコーンカンコーン

「はっ」という大きな声とともに起きた。なぜかみんなクスクス笑っていた。ナツキを見ると、黒板を指していた。今すぐに見ろとでも言うように。見てみると、そこにはニヤニヤしたタクヤがある場所を指していた。
そこには、体育祭実行委員　男　山口　海人　　女　早川　由夜と書いてある。
犯人はすぐにわかった。ほんとすぐに。

「タ～ク～ヤ～。お前だろ！」

「だぁって、寝てたし～～。カイトの名前はわかりやすいから、つい推薦しちゃったんだよ～～。」

「理由になってねぇ～～」半ばあきれ気味に言う。

「まあまあ！私もやるんだしいいじゃないですか！」

「だって！去年もオレがやったんだよ！おっかしいだろ～～！」

「ぐだぐだ言わずにやっちゃいなさいよカッイット！」

「うっ！ナツキまで言うなよ！」　　実はなぁ、嫌な理由がもう一

個あるんだよなぁ。

「ふぅ〜〜」

「安心すんなよ！タクヤ！・・・・えっ・・おい・・・・までよーー！！！」タクヤは走って逃げた。
オレもタクヤの後を追って教室を出た。

「後でまたタクヤ君にお礼を言わなきゃ。一年の時にも同じことしてもらっちゃったし。」

「そうだね。ユヨル。」

委員決め（後書き）

ユヨル〜〜！！！

実行委員会初日（前書き）

少し長めです。
キャラおかしいかもです。

実行委員会初日

「カイト君！今日、実行委員会！」

「えっあっうそだろ！？実行委員の担当の先生って紺野（こんの）だろ～～？」

「えっ？そうだけど、それが？」

「あいつ、オレのこと気に入ってるのか知らないけど、な～～んかからんでくんだよなぁ。」

「まあ・・そうだね～～。でもそれが？」

「去年！！オレあいつに！！副実行委員長にさせられたの！！ユヨルもいたでしょう！！」

「そうだったね・・・・。でも”やめてください”って言えばいいじゃない。」

「そんな勇気は・・・ないんだよな～～。」

「ヘタレ～～～。」

「は～い！ヘタレでございま～～す。」

「サ●エさんか！・・・あっもう！こんなことしてたから！行くよ！遅れたら、カイト君が謝ってよ？」

「へっへ～い」

ガラッ

「「おっおくれました～～。」」

「遅いぞ！これだから山口は。」
えっオレだけ？ユヨルは？

「まあ、ではこれから体育祭実行委員会を始めたいと思います。・・・・じゃあ三年のだれか。あいさつ。」

「起立！礼！」

「じゃあまず、委員長決めちゃおっか。三年立候補いる？」

「ハイ！」真面目田（まじめだ）先輩が手をあげた～～！！

「真面目田。やるか？」

「いえ・・・、さきほど三年で話し合った所・・・受験もあるし、委員長は二年がいいんではないでしょうか。」
えっ！！！何言ってんの？そんな事言ったら・・・・。

「う～ん・・・・。」こっち見ないで～～！にやにやしないで～～！
「たしか、僕らが一年の時にも二年生がやってましたよね。」はい来ました！これとどめ！
「よ～～しわかった。そうしようか。」ほ～～ら～～。
「じゃあ・・・。二年立候補いるか～～？」
ばっ・・と二年の全員がコッチ（オレ）を見る。
その目は純粋に”お願い”とか”頼む”とかまあ許せる（本当なら許さないけど。）ユヨルもその一人なわけで。
許せるわけは、ニヤニヤしながらこっちを見てるやつだ。そして、ムカつくのがあきらかに後者のが多いことだ。
「じゃあ山口でいいな。」わかってたけどね！ユヨルも”あぁー納得”みたいな顔してるし。
「いや待って！なんでオレ！？なんでオレ！？」おどろきびっくりリピート！
「みんなお前を見てるしな。もう決定事項かと。」うん。まだ決定じゃないぜ。
「いやいやいや・・・・・・」
「じゃあここからは委員長の山口にしきってもらうか。」
パチパチパチッ
その拍手はなんだーーー！もう逃げられないし！
もうしょうがない。しょうがない。言い聞かせよう！ああーー。た

すけて〜〜!!ナツキ〜〜。心の中で言ってみる。やるしかないからやるけど。

頑張れオレ!・・・・・・・・・・・ララバイ青春。↑?

席を立って前に行く。

「じゃあ、まず副委員長を各学年選出してください。」

ざわざわざわ〜〜〜〜・・・・・・・

実行委員会初日（後書き）

もうどんどん飛ばしていきたいと思います。
そのせいで、文おかしくなるかもです。

体育祭前日（前書き）

遅くなりました。文おかしいかもです。

体育祭前日

「いや～ここまで来ましたね！ユヨルさん♪」

「そうですよカイト君。カイト君が委員長になったとこからこんなに経ったんです。いいかげんに立ち直りましょ～！それとユヨルの後に意味不明の音符を付けるのをやめましょ～！」

「立ち直れないもん。・・・・　てか嫌なの？はっ・・だから敬語なの？どんだけやねん！」

「カイトく～んがさきに敬語にしたんでしょ～～。”さん”って。」

「いやジョ～クだよ。ジョ～ク！」

「あらま。ジョ～クだったのね。」

「そうだよ。ユ～ヨル。」

「そうだったの～。私ったらとんだ勘違いだわ。AHAHAHAHAHAHAHA」（↑？）

「全くだよ。HAHAHAHAHAHAHA！」（↑？）

「「HAHAHAHAHAHAHAHAHAHAHAHA！！！」

（↑？）

「アメリカかっ！それでもって、ケンカ理由は子供かっ！」

「おっ（あっ）ナツキ（ちゃん）！」

「二人とも。次、あんたらの好きな体育でしょ？ちゃっちゃと準備しなさい！」

「ナっナツキ母ちゃん！！・・・。」

「なんなのよこれ！」

「オ～レ～も～ま～ぜ～ろ～！！！」

「くるな～タクヤー！」

「えっへへ～～。」

「そろそろ更衣室行ったら！馬鹿二人。」

「・・・その言葉に悪意がこもっている・・・・！！！」

「遅れるよ！」

「じゃっ　着っ替っえっましょっ♪　カイト君！　着っ替っえっましょ♪　カイト君！」

「タクヤは何なんだよその歌・・・・。」

体育祭前日（後書き）

わかりずらかったらどんどん言ってください。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6701z/

Ｏｎ Ｙｏｕｒ Ｍａｒｋ

2011年12月26日22時46分発行